

英語力アップの道しるべに、学校や職場でのステップアップ要件に——
TOEICが人生を彩ってくれた、という方々が登場



日本の大学をやめて
アメリカの大学を目指すことに

九州の大学で、スポーツ選手の技術指導や体調・健康管理を行う、スポーツトレーナーを目指して学んでいた鮫島翔太さん。いつかスポーツトレーナー育成の本場アメリカで働きたい、と大学に入った年の夏休みから英会話を学び始めていたが、週に1回通う程度で、特に真剣に取り組んでいたわけではなかった。状況が変わったのは、スポーツトレーナーコースの担当教授が辞めることになってから。そのコースは、履修すれば日本のスポーツトレーナーの必須資格の試験が一部免除になるもので、鮫島さんもそれが目的で学んでいた。しかし、後任教授の着

スポーツトレーナーを目指し、
英会話カフェと書籍教材で1年猛勉強



Shota Samejima

福岡県北九州市にある私立大学のスポーツ学科で、スポーツトレーナーになるために学んでいたが退学、アメリカの大学への進学を目指すことに。英語にはあまり興味がなかったが、1年間の猛勉強の末に、TOEICテストのスコアを375点から730点へと上げた。6月末に、カナダでのワーキングホリデーに出发。

任がなかなか進まず、単位取得も難しい状況に。
「それならいっそ、前から考えていたアメリカ留学を早めようと思つて、2013年の2月に退学届を出し、その後の1年間、本腰を入れて英語を勉強することにしたのだ。

ほとんど何もわからない状態からのスタート。

そもそも英語にはあまり興味がなく、通つて半年になる英会話スクールでも、ネイティブスピーカーの講師が話している内容を理解することすらままならなかった。

留学を本格的に目指すに当たって英会話スクールで最初に勧められたのは、TOEICテストを指標として、自分の力を把握すること。まず

は800点を目指し、そこに到達したら、留学のためのTOEFLテストを受けたいのではないかとアドバイスされたのだ。早速、その年の3月に初受験したものの、結果は375点とお世辞にも高いとは言えないものだった。

とにかく単語がわからなければ何も理解できない、ということ、英会話スクールで薦められたアルクの『聞いて覚える英単語キクタンTOEIC® Test Score 600』(P.17参照)に取り組むことに。「最初は、単語とセンテンスをひたすら書いて覚えようとしたんですが、あまり効率良く覚えられない気がしたので、付属のCDを聞き続けるようにしました。併せて『ペンギンリーダーズ』も読むようにしたところ、だい

ぶ英語に慣れてきました」。

その他、苦手な文法は、同じくスクールで薦められた『新TOEIC® TEST 英文法 出るところだけ!』(アルク)で強化した。

「スクールでは、この本を通して10回読むように言われたんです。それは無理でしたが(笑)、7回は読みましたよ。おかげで、英文を理解するのが楽になり、スクールのネイティブスピーカーの講師が推奨する、ケンブリッジ大学出版局のGrammar in Useの中級レベルの問題もかなり解けるようになったという。

また、スクールには英会話カフェが併設されているので、月間パスを購入し、カフェがオープンしている日は毎日通つて、英語を聞いた話したりする練習を積んだ。